

『つながる・ともに・ひろがる』 ボランティア活動と社会的使命

千葉大学 長澤成次先生

「聴ける人がいて、初めて人は話せる」これは、『公民館で学ぶⅡ』という本の中の、渡辺先生のことばなのですが、真理というのは単純なんですが聴いてくださるか、私は話せるわけで、人と人の関係性を改めてじっくりと考えてみるんですが、とても必要だと思います。

私はこの話すとか聴くとか、そういう自分作り、自分探しにずっとこだわってこれまでやってきました。今、千葉大学の教育学部で社会

教育というのをやっているんですけども、ずっと私は生活史学習、ライフヒストリーにこだわってやってまいりました。私は人が学ぶとか、あるいは社会教育というものを考える時に、一人一人の生き方っていうものを無視したり、その人の生き方から離れた学びっていうものはないと確信しています。皆さんも傾聴の講座に参加されたのには、自分の暮らしとか生き方とか、あるいはそこから生まれてきた

様々な思いや願いがあつて、それがきっかけになつたのではないかと思えます。私はそこにこだわるといいますか、それが、本当の学びを作っていく重要なファクターになつていくんだと思つています。

私は今浦安の公民館で、生活史自分史講座というのをやっております。自分のライフヒストリーを文章にするっていうのは大変なので、自己紹介をして語ることから始めるのですが、この語り合いが非常に大事です。その時にちゃんと聴いてくれる人がいる、受けとめてくれる人がいるという信頼関係が重要なんです。語つてもいいかなという、この「つながる」質みたいなものが、語つてゆく状況を作っていくんじゃないかと思えます。自分を語ることを仲間作りというのとは大変相互に関係していると思えます。

また歴史を考えた時、歴史というものは一人一人が作っていくもので、一人一人の歴史的事実がどんどん明らかになることによって、本当の歴史が見えてくると思えます。私達には表面しか見えていないことがあるの



講演を行う長澤先生 = 堀谷雅美撮影

聴ける人がいて初めて人は話せる

で、皆さんがこのぬくもりほつとらんで一人一人のつばやきを聴くというのは、実は今の日本の現代社会でいうものを読み取っているのではないかと思えます。

副題である、ボランティア活動についてですが、その基本理念に、自発性、無償制、公共性、先駆性の四つがあります。傾聴電話には、非常に先駆的な意味があると私は思えます。ボランティア

活動というのは、行政がなかなかできない部分、新しい分野を開発していくということがあつて、そういう点でこの傾聴電話は先駆的な活動だと思つています。またこ

皆さんには、この傾聴という営みがもつ『ひろがり』でNPO活動を通して、人間をつくっていく形成力、教育力をぜひ発揮してほしいと思つます。そして学ぶことによつてつながっていくという、人と人を『つなげる』学びを大切にしていただきたい。仲間と『ともに』歴史をつくる主体として、NPOとして掲げたミッションの実現をめざしていってほしいと思つています。

（文責 H・A）

参加者の感想（その二）

・記念講演、長澤先生のお話の中で「語りたくないところに最も重要な面がかくれている」という言葉がありました。相手が受け止めてくれる安心・信頼が出来る、かくれた事が出てきて語り

人生にムダな事は一つない

・長澤先生のお話からボランティアは自主的でない

・長澤先生のお話の中にあつた「過去の事実は自己の変化によってその意味を変化させる」とても心にしみる一文だつた。「人生にムダな事はひとつもない。今

・長澤先生のお話からあつた「過去の事実は自己の変化によってその意味を変化させる」とても心にしみる一文だつた。「人生にムダな事はひとつもない。今

・長澤先生のお話、とてもよかったです。自分自身を広げ、成長させる為に学びがとても大切であることがよく分かり、今の講座を一步深い意味で捉える事が出来ました。言えない（書けない）ところに大きな意味があるんですね。

（S・Sさん）

（M Wさん）